



第 39 号

平成18年9月12日

発行  
山口県防衛協会

印刷 海田印刷有限会社



### 指揮機能を発揮する82式指揮通信車

事務局 長 藤井英昭 (平成18年6月9日現在)	監事	(下関支部長)	(岩国支部長)	(青年部会長)	(女性部会長)	理事	副会長
	藤大澤吉	澤良木	吉鈴木	山口村	大伊藤	中松國田	三末齋藤
	井井橋田	光修昭	宏富美	俊隆	豐是	壽喜宗	井田野尾
	昭榮博文	治明子	雄司旭	隆實博	是篤傳	太郎昭房	寛聡茂
							赤松白辻小田
							嘉正正裕耕
							池中之三

# 第四十三回定期総会を開催

山口県防衛協会(会長田中 耕三)では去る六月九日山口市内のホテルで開催した。

本総会では、当日所要のため出席できない山口県知事のメッセージを山口県危機管理監(田中一郎氏)が「今後とも自衛隊員の心の支えとして、また県民と自衛隊のかけはしとして一層のご尽力を賜りたい。」と代読され、引き続き海上自衛隊佐世保地方総監(海将 香田 洋二氏)から「山口県防衛協会の平素の諸活動を称賛し、一層の発展を祈念する。」祝辞があり、県下基地司令等多数の来賓の列席のもと県下各地から二三〇名の会員が出席した。



同総会では、平成十七年度事業同決算報告及び平成十八年度事業同予算(案)並びに役員選出(案)についての各議案が満場一致で承認された。

特に、役員改選(案)については副会長の中東素男氏、理事の永岡哲雄氏、名和田洋二氏、馬場俊作氏、岩国支部長の宮部隆幸氏、事務局長の末廣 馨氏六名の方々が辞任し、副会長に小池裕之氏、理事に田中 傳氏、松江豊博氏、中司 実氏、岩国支部長に吉良昭治氏、事務局長に藤井英昭氏がそれぞれ就任された。

定期総会に引き続き、陸上自衛隊第一次イラク復興支援群長として活躍された陸上自衛隊西部方面総監 部幕僚副長(陸将補 番匠幸一郎氏)による講演があり演題は「自衛隊の国際貢献と日本人」と題し開催され、特に平素の自衛隊の教育訓練のたまものであり日夜訓練によって培った使命の自覚、強固な団結、個人の高い技術、任務に対する責任感の現れであると確信し、自衛隊に対する国民の認識と理解の促進や国際的な評価の向上に貢献できたと講話され、イラク復興支援の活動状況に話がおよぶと会場の聴衆は固唾をのんで聞き入り、大盛会のうちに本行事を終了した。



## 第四十三回定期総会 における会長挨拶

本日は、山口県防衛協会第四十三回定期総会のご案内を申し上げます。また、関係自治体、海上自衛隊佐世保地方総監殿、県下陸海空自衛隊各基地司令等、その他多くのご来賓のご臨席を賜り、心から御礼申し上げます。

また、会員の皆様方におかれましては、県下各地からこのように多数のご出席をいただきましたことに対して深く感謝申し上げます。お陰様をもちまして、平成十七年度の当協会の事業が滞りなく推進できましたことをご報告申し上げます。これも偏に会員各位の熱意と協力の賜であり、心から敬意と感謝を申し上げます。さて、今日の安全保障環境は、テロや大量破壊兵器等の拡散といった脅威に対して、国際社会が多国間の枠組みを活用した各種協力態勢をもって対応しているのが特徴であります。

また、四囲を海で囲まれた安全保障を巡る環境は、北朝鮮の核開発問題、中国及び台湾の軍事力拡張の問題、東シナ海におけるガス田開発問題など新たな問題が顕在化してきており、竹島に代表される従来からの領有権の問題から海底資源や漁業、海運など我が国を取り巻くあらゆる状況が日本の安全、とりわけシーレーンの確保に影響を及ぼすものとなってきております。

これらの新たな脅威や多様な事態により迅速かつ効果的に対応するため、自衛隊は去る三月末に統合幕僚監部を新設し運用を一元化するなど新たな体制に移行しました。また、皆様もご承知のとおり自衛隊は現在も引き続きテロ対策特措法に基づくインド洋での洋上給油等の活動、イラク人道復興支援特措法に基づくイラク復興支援活動を行っており、自衛隊員が黙々と職務に励む献身的な姿は、自衛隊に対する国民の認識や理解を深めさせ、信頼と期待を確実に高め、国際的にも評価を高めてきたものと思えます。

今後、陸海空各自衛隊は、統合運用のもとでそれぞれの五十年の歴史・伝統・文化を踏まえつつ、持ち味を十分に発揮し、自衛隊員全てが心を一つにして国民の期待と信頼に応えていただきたいと思います。ところで、去る五月に徳島県で中国・四国地区自衛隊協力団体長会議が開

催されました。この会議は、昭和四十六年から毎年中国・四国地区の自衛隊協力団体が一堂に会し、防衛思想の普及並びに自衛隊に対する協力支援の在り方について意見を交換し、各協力団体が抱える問題の解決に努めるとともに、各協力団体相互の連携と意思の疎通を図ることを目的として、毎年各県が持ち回りで開催されています。来年五月には、当山口県が開催する運びとなっており是非とも本会議を成功させたいと念願しておりますので皆様方のご協力を宜しくお願いいたします。

当協会は、会員の皆様方とともに県内所在の自衛隊への支援活動や県民への防衛意識の普及活動を従前にも増して強力に推進してまいり所存でありますので、本日ご参加の皆様方には今後ともより一層のご協力をお願い申し上げます。

なお、会員の皆様方には後程、平成十八年度事業計画に関する各議案につきまして十分なご審議を賜りたいと存じますのでよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、県下所在の自衛隊におかれましては国家防衛という崇高な任務達成の為、厳正な規律の下、更なる研鑽・精励によって国民の負託に応えられますよう切に期待いたしますとともに、本日ご参加の皆様方のご健康とご多幸を祈念申し上げます。私のご挨拶といたします。

**青年部会総会を  
開催**

山口県防衛協会青年部会会長（鈴木宏明）は去る六月六日山口市内「西の雅 常盤」で総会を開催した。総会は平成十七年度活動報告及び平成十八年度事業計画（案）並びに役員改選（案）について各議案が満場一致で承認された。特に、役員改選については副会長吉良昭治氏が任期満了、後任に理事の長野英彦氏に、副会長國光 弘氏は理事に後任に黒神直大氏が、新たに理事として岩国・柳井支部に渡辺良明氏、末永壽和氏、周南支部に田所宏章氏がそれぞれ選任された。



総会に引き続き、山口地連部長（一等空佐 吉松卓夫氏）の協力を得て中国・韓国の防衛駐在官を経験された体験豊富な航空幕僚監部情報運用室長（二等空佐 関谷智幸）による講演があり、「最近の中国情勢」と題して行われ、最近の中国・朝鮮半島に関する認識を深めた。引き続き、懇親会に移り有意義な懇親が行われ和やかな内に終了した。

**女性部会部隊研修**

山口県防衛協会女性部会会長（山口富美子）以下五十名は、七月七日女性部会活動の一環として海上自衛隊小月基地及び下関基地を研修した。

当日は天候に恵まれ県内各地から会員が参加し、防衛協会借り上げ大型バス一台に乗車し、海上自衛隊小月基地に到着、小月基地の温かい出迎えを受け、さっそく山口富美子会長が小月教育航空群司令（一等海佐 安田義人氏）を尊敬し、続いて担当者による基地の現況の説明を受けた後、学生居住区を見学、整った設備やきれいに整頓された居室等に感嘆しきりであった。引き続き格納庫へ移動し航空機（練習機T-5）及び（救難機



UH-60J)に触れたり乗ったり、楽しい一時を過ごした。次の研修場所の移動途中に下関名物「カモンワーフ」に立ち寄り今夜のおかずを袋いっぱい買い込んでいた。下関基地に予定通り到着、高橋敦子副会長が下関基地隊司令（一等海佐 高橋陽一氏）を尊敬し、担当者による基地の現況の説明を受けた後、掃海艇を見学、会員の質問に懇切丁寧に応答して頂いた隊員の姿が印象的であった。掃海艇の役割、任務の重要性を認識し研修を無事終了した。

# 新着任司令の挨拶



海上自衛隊第三十一航空群司令  
海将補 植月 政則

私は、三月二十七日付けで海上自衛隊第三十一航空群司令として着任いたしました植月海将補であります。この度、山口県防衛協会の機関誌「防衛山口」へ投稿の機会をいただき光栄に思っております。また、田中会長をはじめ山口県防衛協会会員の皆様には常日頃から自衛隊に対し深い理解と絶大なご協力、支援をいただいております。本紙上をお借りして厚くお礼申し上げます。

着任挨拶とこのことですので、私の略歴及び所信を記載させていただきますと思います。

私は、岡山県北の津山市の出身で、昭和四十五年津山高等学校を卒業後、防衛大 schools 第十八期生として入校、四十九年に卒業、海上自衛隊幹部候補生学校、航空操縦士教育課程等を経て回転翼操縦士として勤務して参りました。部隊では、飛行隊長、航空隊司令、航空群司令部首席幕僚、航空群司令を、また海上幕僚監部の班員、統合幕僚会議の班長、情報本部の課長を勤めさせていただき、この春、海上自衛隊幹部学校副校長から第十九代の群司令として着任いたしました。操縦士としての飛行時数は約三二〇〇時間で、護衛艦に搭載するヘリコプターを主として操っておりまして、勤務地としては、東京四回、

神奈川厚木四回、長崎県大村四回、千葉県館山二回であります。昭和五〇年から約一年半、小月で飛行学生として訓練を受けていた時期がありますが、勤務として山口県は初めてであります。執筆時(八月下旬)で約五ヶ月が経過しましたが、周防長州の深い縁、清流の河川と穏やかな内海、堅剛実直な長州人に憧れと親しみを強く感じているこの頃です。

ここ十年で自衛隊を取り巻く環境は大きく変わりました。平成三年の湾岸戦争終結後のペルシャ湾への海上自衛隊掃海部隊の派遣をかきりに、PKOやテロ対策特別措置法に基づく海上自衛隊インド洋派遣部隊、陸上自衛隊を主としたサマーワへの部隊派遣等の海外での任務行動、北朝鮮の工作船や中国原子力潜水艦領海侵犯に対する海上警備行動、ミサイル発射に係わる警戒監視の行動等に見られるように、自衛隊が日本の安全保障の要となつて、日本の国益を担って対応するよう期待されるようになってまいりました。

このような中、私は、群司令として各隊員に自己の技能に係わる錬磨、強靱な体力と精神力の育成を図るとともに組織として十分な実力を発揮できるように各種訓練に励むよう求め、推進しております。一方で、現況の日本の風潮を見ますと軽薄

稚劣な事案が瀕起しており、江戸時代から精神文化として営々と培われてきた日本人の精神基盤が瓦解してきているような観があります。「漢(おとこの美学)」「行動の美学」「公(このころ)等の古来からの日本人が美しい心根として保ってきた倫理観について、次の世代を担う若者たちに訴え、考えさせるように指導していこうと考えております。

岩国航空基地で群司令として執務しておりますと、地勢学上、韓半島での緊迫や東シナ海での波慌ただし状況(中長期的には勢力のバランスを著しく欠く畏れがある)に注察す



海上自衛隊小月教育航空群司令  
一等海佐 安田 義人

平成十八年四月十日付、木村群司令の後任として、小月教育航空群司令を拝命し、厚木航空基地第五十一航空隊司令から着任した安田でございます。

山口県防衛協会の皆様方には、平素から我々自衛隊に對しまして深いご理解と暖かいご支援を賜り、衷心より感謝申し上げます。

小月教育航空群は海上自衛隊において、将来航空機の機長となるべき学生に、基礎教育及び操縦

る毎日です。我々の実力は、本質的に短期間で培えるものではなく、将来を見据えて国家の存亡に憂いなきように、長期の観点から備えていかなければならないと実感する日々です。

最後になりますが山口県防衛協会の益々の発展と会員皆様方のご健勝を祈念申し上げ、置筆といたします。

(略歴)  
昭和二十六年八月十三日生  
第五十一航空隊副長  
第二十二航空群司令  
幹部候補生学校副校長  
防大(十八期)岡山県出身

教育を行い、搭乗員としての第一歩を踏み出させるといふ崇高な任務を担い、現在までに四千名を超える搭乗員を一線部隊に送り出しております。これも防衛協会の皆様他、周辺地域皆様の温かいご理解とご支援の賜であり、厚く御礼申し上げます。

私の山口県での勤務は、岩国基地での勤務を含め三回ありますが、小月基地での勤務は昭和五十一年の秋、幹部航空基礎課程学生とし

て教育を受けて以来約三十年ぶりであり、非常に懐かしく、嬉しく思うと同時に、海上自衛隊における搭乗員教育の第一段階を担当する重責に身の引き締まる思いであります。

私は、群司令として勤務するにあたり、隊員に対する指導方針に「かたちをつくれ」、「情熱を燃やせ」、「明るく前向き」の三点を掲げております。つまり、学生に武人として、搭乗員としての驍愛国心、礼儀、そして名誉と恥をわきまえること等を身に付けさせ、隊員総員が学生教育に情熱を燃やし、学生はその情熱を受けとめて、明るく前向きに、目標に向かって突き進むということを求めています。私は、一人でも多くの



陸上自衛隊防府分屯地司令

二等陸佐 古賀 幹 徳

山口県防衛協会の皆様、三月二十三日付けで陸上自衛隊第十三飛行隊長兼ねて防府分屯地司令に着任いたしました古賀でございます。

山口県防衛協会の皆様には、平素から陸上自衛隊防府分屯地に対する深いご理解と格別のご支援・ご協力を賜り、この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。

私は、北海道の出身であり、また、山口県での勤務は初めてであります。ここ山口県の美しい人と自然、輝かし

精強な搭乗員を育て、国を支える大きな柱を築くべく最善を尽くす所存であります。よろしくご支援、ご理解の程お願い申し上げます。

(略歴)

- 昭和二十六年十二月二十六日生
第八航空隊副長
第九航空隊司令
統合幕僚学校
航空集団司令部作戦幕僚
教育集団司令部幕僚長
第五十一航空隊司令
防大(十九期)熊本県出身

い歴史と文化に彩られた街並みに深く感銘を受けております。

我が防府分屯地には、陸上自衛隊第十三旅団(司令部広島県海田市)隷下の第十三飛行隊を始めとする部隊が所在しており、その任務は、「中国五県(山口県、島根県、鳥取県、広島県及び岡山県)における防衛・警備及び中国五県に四国西半分の地域を加えた地域における災害派遣」であります。幸いなことに、私が着任以来、本地域における大規模な災害は未だ発生しておりませ

が、「備えあれば憂いなし」との格言通り、常に災害発生等に即応しうる態勢を保持しております。去る六月十二日早朝に発生いたしました大分県中部を中心とする震度五弱の地震発生に際しましては、速やかに航空機を発進させ、各種情報の収集・伝達を行うことができました。

さて、国際情勢が混迷の度を増す中、自衛隊に対する期待は益々高まつており、我々は、多様な役割に即応することが求められております。また、今年度からは、三自衛隊による新たな総合運用体制となり、陸・海・空自衛隊の持つ能力を総合的に発揮することがこれまで以上に必要とされております。

このような中、陸・海・空自衛隊すべての基地・駐屯地が所在する山口県におきましては、地元の方々の深いご理

解の下、三自衛隊が一致団結し、その能力を最大限に発揮することが必要であると認識しております。

今後とも、「地域の皆様に信頼され、多様な役割に即応しうる精強飛行隊」を目指し、日々努力していく所存でありますので、当飛行隊及び分屯地に対する皆様の一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、山口県防衛協会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念申し上げ、着任のご挨拶とさせていただきます。

(略歴)

- 昭和四十二年十二月七日生
第一飛行隊
陸上自衛隊航空学校
第十二師団司令部
陸上自衛隊幹部学校付
情報本部
防大(三十四期)北海道出身

新着任本部長の紹介

(平成十八年八月四日付)



自衛隊山口地方協力本部長 1等空佐 中 原 茂 樹

(略歴)

- 昭和三十五年十月三十一日生
航空幕僚監部人事教育部補任課
航空幕僚監部防衛部防衛課
防衛研究所
航空幕僚監部人事教育部人事計画課総括班長
航空幕僚監部人事教育部厚生課厚生班長
航空幕僚監部人事教育部補任課服務室長
防大(二十七期)宮崎県出身

# 統合運用体制への移行の必要性

## 一、陸海・空自衛隊の一体的運用による迅速かつ効果的な対応

わが国に対する侵略事態などに対処する場合、「各自衛隊ごとの運用を基本とする態勢」では、各自衛隊は、たとえ、同一の作戦地域において行動する場合でも、それぞれの作戦構想に基づいて個別に行動し、必要に応じて統合調整を行って対処する必要があったため、迅速性、適時性の観点から、統合の視点から企画・立案した作戦構想に基づいて、各自衛隊が有機的に連携し、迅速かつ効果的に任務を遂行し得る統合運用の態勢を確立しておくことが必要である。また、情報通信技術など、進歩する軍事科学技術を最大限に活用することにより、各自衛隊が情報を同時に共有し、一体的に活動することも不可欠である。

## 二、軍事専門的観点からの長官の補佐の一元化

「各自衛隊ごとの運用を基本とする態勢」では、各幕僚長と統合幕僚会議が、それぞれの軍事専門的観点から長官を補佐するため、場合によっては、異なる状況認識と作戦方針に基

づいて補佐することも考えられ、迅速かつ効果的な事態対処に支障を来すおそれがあった。このような問題点を解消し、あらゆる事態への対処に際し、自衛隊の運用に関して軍事専門的観点からの補佐を一元化し、内部部局の政策的観点からの補佐と相まって、的確に長官を補佐できる体制を整備する必要があった。

## 三、日米安全保障体制の実効性の向上

日米安保体制を基調としているわが国にとって、米軍との整合のとれた共同対処行動をとることが重要である。従来の運用態勢では、自衛隊が統合軍である米軍と共同対処行動を実施する場合、米軍が一人の指揮官の下、四軍が同一の作戦構想の下で行動するのに対し、自衛隊の行動は、各自衛隊がそれぞれの作戦構想に基づいて個別に行動し、必要に応じて統合調整を行って対処することとなっていた。このため、自衛隊の運用の態勢を「統合運用を基本とする態勢」とし、自衛隊と米軍がそれぞれ統合の視点から企画・立案した作戦構想に基づき、共同して対処しやすい態勢を構築しておくことが必要である。

### 統合運用体制における自衛隊の運用の具体例

今回の統合運用体制への移行により、自衛隊の運用にあたっては、統幕長が軍事専門的観点から一元的に長官を補佐し、各自衛隊に対する長官の命令を一元的に執行することになりました。これにより、例えば、大規模な人的・物的被害の発生が予想される南関東地域での震災に際しては、次のように、自衛隊の迅速な対応が容易となります。

地震発生直後、陸・海・空自の部隊はそれぞれ、知事などの要請や自主的な判断に基づき、直ちに必要な人命救助活動を行います。これと同時に、統幕長は、映像などにより収集された陸・海・空自の部隊からの情報に基づき、被害の状況などについて、陸・海・空自の垣根を越えて総合的に把握します。この情報は、政府や防衛庁としての判断に活用されることになります。またこれに加え、一刻を争う救援のために、陸・海・空自の部隊の整合のとれた活動に関する防衛庁長官の判断を、統幕長が軍事専門的観点から補佐することにより、迅速な意思決定が可能となります。

被害が甚大な場合は、内閣総理大臣による「災害緊急事態の布告」および防衛庁長官による「大規模震災災害派遣」の命令を受け、陸自東部方面総監（東方総監）を指揮官として、海自横須賀地方隊および空自航空総隊の部隊を含めた「統合任務部隊」を速やかに組織し、人口の密集した南関東地域における直接の救援活動を行うことを計画しています。

この際、統幕長は、「統合任務部隊」指揮官への長官の命令を執行し、これまで陸・海・空各幕僚長がそれぞれ行っていた中央レベルでの調整や救援に必要な部隊・救援物資の輸送などの必要な処置を一元的に行います。例えば、全国の陸・海・空自の部隊をもって、「統合任務部隊」を増援し、地震の被害の状況に応じて、最大で約7万人の人員が救援活動にあたることを計画していますが、これらに必要な増援部隊、特に長距離を移動する部隊の輸送にあたっては、輸送の優先順位や手段に係わる統幕長の一元的な方針の下、陸・海・空自の輸送手段が、効率的に活用されます。

一方、「統合任務部隊」指揮官である東方総監は、統幕長の行う全自衛隊レベルでの処置と連携しつつ、政府の現地対策本部などとの連絡調整窓口として、現地でのニーズを一元的に把握します。さらに、現地での被害の状況に応じた救援活動の優先順位に基づき、増強された部隊を含め、指揮下の陸・海・空自の部隊を一元的に運用し、救援・復旧支援活動を行うこととなります。



# 基地等紹介

## 「地方協力本部」がスタート 国と自治体との連携強化

防衛庁設置法等の一部を改正する法律案に伴い七月三十一日付で五十個地方連絡部が「自衛隊地方協力本部」に改編された。十六年度閣議決定の防衛大綱で示された国民保護や大規模災害対処など国と地方自治

# 自衛隊山口地方協力本部



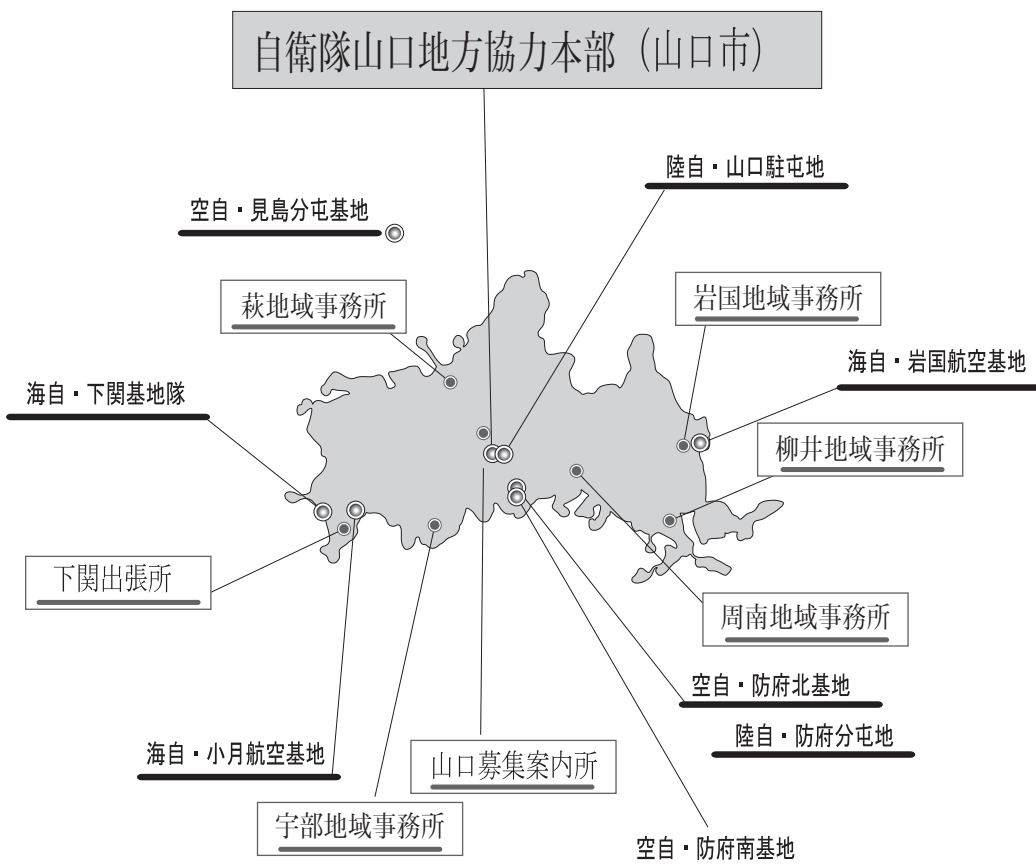
「国民保護関連」と「災害対策関連」業務の追加は、国民保護法の規定で武力攻撃事態などでの国民保護活動

が緊密に連携・協力する体制づくりを目指す政府方針に基づくもので、国民保護・災害対処関連事業など防衛庁・自衛隊が関係する諸協力の総合調整窓口として機能することになる。地連から地方協力本部への改編は、従来の募集業務中心の組織を防衛庁・自衛隊と地方公共団体との協力関係を構築する中心的な地方組織として位置づけ直したものだ。地連の業務は①自衛官募集②予備自・即応予備自等の管理③募集広報④退職自衛官の再就職支援⑤その他長官から特に命じられた事項だったが、地方協力本部への改編により新たに地方における渉外及び広報業務として「国民保護関連」「災害対策関連」「一般的な対外広報」「地方公共団体等との各種窓口」の機能が加わった。

体が緊密に連携・協力する体制づくりを目指す政府方針に基づくもので、国民保護・災害対処関連事業など防衛庁・自衛隊が関係する諸協力の総合調整窓口として機能することになる。地連から地方協力本部への改編は、従来の募集業務中心の組織を防衛庁・自衛隊と地方公共団体との協力関係を構築する中心的な地方組織として位置づけ直したものだ。

が自治体主導で行われるものの、自衛隊も都道府県知事の要請があれば事態対処の障害にならない範囲で「国民保護等派遣」で住民の避難誘導や救援活動に当たるためだ。これら関連業務の窓口担当となる「国民保護・

災害対策連絡調整官（事務官、行（一）4級）が今年四月一日付で各全国協力本部の総務課内に設置（計五十人の増員）されており、今後、地元自治体とより緊密な協力、連携関係を構築していくことになる。



※県内自衛隊基地等

平成18年度各種広報行事予定表

月日(曜)	行事名	場所	行事予定
10月1日(日)	航空祭	航空自衛隊 芦屋基地	予定/ブルーインパルス飛行 展示、他
10月21日(土) ~ 22日(日)	スウェルフェスタ 航空基地祭	海上自衛隊 小月航空基地	記念式典、ファンシードリル展示、 展示飛行、音楽演奏、航空機 展示、シミュレーター体験操縦、 フリーマーケット、基地一周ウォ ーク、海軍カレー試食(有料)
10月29日(日)	創設51周年 記念行事	陸上自衛隊 山口駐屯地	観閲行進、訓練展示、装備品 展示、ジープ試乗、ちびっこ 広場
11月12日(日)	航空祭	航空自衛隊 築城基地	装備品展示、飛行展示、 各種模擬売店、航空機展示
	創立記念行事	陸上自衛隊 海田市駐屯地	装備品展示、飛行展示、 各種模擬売店、他
11月18日(土)	市民と音楽の夕べ	ルネッサ長門	音楽隊:第13音楽隊(陸自) 入場料:無料/入場整理券必要 開 催:夕方~(時間未定)

実施日及び行事内容は、天候あるいはその他の都合により変更になる場合があります。尚、行事の紹介は一部です。詳しくは、最寄りの地方協力本部又は各地域事務所等にお問い合わせ下さい。

看護学生  
受付期間  
九月八日~九月二十九日  
防衛医科大学校学生  
受付期間  
九月八日~九月二十九日  
防衛大学校学生(一般)  
受付期間  
九月八日~九月二十九日  
自衛隊生徒  
受付期間  
十一月一日~十九年一月九日

自衛官等募集案内



※詳しいお問い合わせは  
自衛隊山口地方協力本部  
(〇八三一九二二二二三二五)

部隊研修案内

昨年度は陸上自衛隊玖珠駐屯地を研修し待望の戦車試乗を体験をいたしました。本年度は、十月十七日から十八日の予定で山陰の旅の拠点米子市の陸上自衛隊米子駐屯地で勤務する県出身隊員を慰問し、白砂青松という美しい海岸風景の皆生温泉の研修旅行を計画しております。詳しくは、ご案内を同封致しておりますので会員皆様のご参加をお待ちしております。



事務局だより

山口県防衛協会への入会について

当協会は、一層の会勢拡大を図るため法人、団体及び女性・青年層の皆様にご入会を賜り、二十一世紀の会組織・会活動の一層の活性化を進めてまいりたいと存じております。何卒、当協会の主旨にご賛意を賜り奮って本会に入会されます方々のご推薦又はご紹介をよろしくお願いいたします。

年会費は  
 法人会員 一五、〇〇〇円以上  
 団体会員 三、〇〇〇円以上  
 個人会員 二、〇〇〇円以上  
 入会ご希望の方々はご紹介下さる方は、左記までご連絡下さい。  
 連絡先 (〇八三一九二二二二三二五)



山口県防衛協会40周年記念事業ホームページを開設しました。各種情報については下記アドレスにアクセスしてください。  
<http://www.y-defense.jp/>